

## サステナブルビジネス投資戦略策定と出資実施について

株式会社三菱UFJ銀行（取締役頭取執行役員 <sup>みけ</sup> <sup>かねつぐ</sup> 三毛 兼承、以下 当行）は、今般、「サステナブルビジネス投資戦略」（以下 本投資戦略）を創設致しました。

近年、サステナブルビジネスに関連するグローバルな潮流変化の中で、投融資の概念をリスク・リターンに、環境社会インパクトを加えた3次元へ拡張した新たな投融資としていく、適正な財務リターンを確保しながら環境、社会へのインパクトを意図して取り込むインパクト投融資、ポジティブインパクトファイナンス<sup>1</sup>の流れが加速しています。インパクトを重視した投融資によって、持続可能な社会・経済づくりに貢献する考えが浸透し始めており、当行としても、TCFD<sup>2</sup>・PRB<sup>3</sup>の賛同・署名等で、より環境社会インパクトの把握と公表の重要性に着目しています。

本投資戦略は、経済性と環境社会インパクトを両立させた投資を将来的に拡大すべく、投資判断に、経済性に加え、環境社会インパクトを加味した投資戦略となります。今回、CO2削減量に将来の炭素価格を乗じて試算する手法であるインターナルカーボンプライシング<sup>4</sup>を採用しています。今後は、国際的なインパクトの評価手法の方向性や整備状況も踏まえて投資を検討して参ります。

本投資戦略に基づき、運用プロセスにインパクト投資の仕組みを組み入れ、インパクト評価を実施する先進的なファンドである、下記2案件への投資を実施しています。これにより、当行出資分ベースでは年間約5万トンのインパクト（CO2削減効果）が見込まれます。

### 【第1号出資案件概要】

ファンド名称	Global Renewable Power Fund III (“GRP III”)
アセットマネージャー	BlackRock, Inc.
対象地域	OECD 加盟国
投資対象	再生可能エネルギー、蓄電・配送電等の付随設備
特徴	運用プロセスにインパクト投資を組み入れ、国連のSDGsに即したインパクト評価を実施
当行出資分想定インパクト (CO2削減効果)	約2万トン/年（当行試算に基づく）

### 【第2号出資案件概要】

ファンド名称	Ares Climate Infrastructure Partners
アセットマネージャー	Ares Management Corporation
対象地域	北米
投資対象	気候変動対策分野のインフラ・エネルギー資産
特徴	ESGインパクトを含むESGパフォーマンスのレポートを実施
当行出資分想定インパクト (CO2削減効果)	約3万トン/年（当行試算に基づく）

当行は、引き続き、お客さまの ESG の取り組みを支援し持続的な成長を後押しすることで、事業を通じた環境・社会課題の解決に貢献してまいります。

[1] ポジティブインパクトファイナンス：2017年 UNEP FI がポジティブインパクトファイナンス原則で整理された概念。金融において「ポジティブ・インパクト」を創出するための共通原則で、持続可能な開発の3側面（環境・社会・経済）について、ポジティブ、ネガティブの両面からインパクト評価を行う投融資を指す。

[2]TCFD：Task Force on Climate-related Financial Disclosures（気候関連財務情報開示タスクフォース）の訳。投資家の適切な投資判断を促すために、気候関連情報の開示を企業に求める枠組み。

[3]PRB：Principles for Responsible Banking（責任銀行原則）の訳。SDGs やパリ協定等の国際社会の目標と整合した事業活動を銀行に促すことを目的に、国連環境計画・金融イニシアティブ（UNEP FI）が提唱する枠組み。

[4]CO2 削減量に将来の炭素価格を乗じて計算する手法。組織が独自に自社 CO2 排出量に価格をつけ、企業活動を低炭素化するために使用する概念で、事業会社を中心に投資判断に用いられる。今回、PwC サステナビリティ合同会社のサポートの元、削減されるカーボンコストを収益補正して換算する手法を組み込んだもの。